

第3学年C組 保健体育科授業案

公開 I 育 朋 館
授業者 山本 泰弘

1 単 元 心棒強く 一打にかけろ 棒術（日本の伝統Ⅲ）

2 単元の構想

（1）本単元で目指す子どもの姿

子どもは、有効打突を決めるための攻め方を仲間と試行錯誤しながら追究する。自ら打ち込むことで相手に隙を作ったり、相手の攻撃をかわした直後に攻め込んだりする攻撃の有効性に気づく。本単元をとおして、相手と対峙して攻防する楽しさを味わった子どもは、更に仲間との関わりを大切にしながら運動に関わっていく

（2）本単元で伸ばしたい力

本学級の子どもは、武道の学習として昨年度短剣道に取り組んだ。払い技を取り入れたり、フェイントで仕掛けたりしながら攻撃の方法を考え、その中で理にかなった動きを取り入れる大切さを実感し、個の動きのよさに気づく力を伸ばすことができた。

本単元では、短剣道よりも多様な攻撃や防御ができる棒術に取り組むことで、複雑な動きの中にも理にかなった動きを追究する活動につなげたい。棒が長かったり、棒の両端で打つことが可能であったりと、攻防の幅は広い。身につけた技をもとに試行錯誤する中で、個の動きのよさに気づく力を更に伸ばしていきたい。また、試合形式としては、団体戦を採用する。味方同士で練習したり攻撃の方法を追究したりする活動をとおして、技と心の両面を磨くことのすばらしさに気づかせたい。それが、人との関係を築く力の伸びにつながると考えている。

（3）はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

出会う段階では、棒術の試合の映像を視聴しルールを確認した後、繰り返し試合を行う。道具の扱いは難しいが、棒の両端での打突が可能のため、多様な攻め方ができる特徴に気づき、打突の練習をしたり、攻撃の仕方を考え始めたりする。

深める段階では、仲間同士で練習を行い、気づいた攻め方や守り方を私の必殺技カードにメモしていく。メモしたことをもとに意見交流することで、攻め方や守り方を共有し、試合に取り入れていく。試合後にもチームで意見交流を行う。相手の動きを分析したり仲間の動きのよさを認め合ったりすることで、先に攻撃を仕掛けていくよさや相手の動きに応じた技を出したりすることの有効性に気づき、連続技や応じ技などの攻撃を考え始める。また、試合を撮影しチームで視聴する場を設ける。そうすることで、自分や仲間の動きのよさや足りなさに気づき更に攻防の仕方を工夫していく。

つなげる段階では、大会を企画、運営する。相手との攻防の楽しさを実感し、ここまでともに高め合ってきた仲間のためにも、全力で試合に臨む。また、単元をとおして、心の成長に視点を当てた振り返りカードを書く活動を取り入れる。そうすることで、技の高まりだけでなく、心の成長を実感できる。一人一人の心の成長を意見交流で共有し、単元まとめを書くことで、個の心の成長だけでなく、集団としての成長にも気づくであろう。それが、ともに高め合ってきた仲間へ感謝の気持ちをもつことにつながる。仲間の存在の大きさと相手と対峙して攻防をする楽しさを実感した子どもは、更に仲間との関わりを大切にしながら運動に関わっていく。

3 単元構想表 (13時間完了)

段階	主なはたらきかけ	<input type="checkbox"/> 思い・考え <input checked="" type="checkbox"/> 「学んだこと」 <input type="checkbox"/> 子どもの行動	保健体育科で重視する力
出会う	<p>○照らし合わせる経験 試合の仕方を理解できるように、ルールや道具の使い方の説明をし、その後、試合を繰り返す</p>	<p>長い棒を使った武道は今まで取り組んだことがない 昨年度に取り組んだ短剣道で、武道の学習の楽しさを実感した</p> <p>棒術の試合をたくさんしたい 1時～3時</p> <p>構え方は剣道の構え方を参考にすればよいそうだ 棒の両端で打てるけれど、どうやって打てばよいのだろう 上段、中段、下段にそれぞれ正確に打てるようになりたい</p>	<p>☆個の動きのよさに気づく力 ・棒術の試合のために、身につけたい技能に気づく</p>
深める	<p>○振り返る経験 単元をとおして、その時間の心の高まりや変化を、成長の視点でカードを用意して、記入し、提示する</p>	<p>棒が長いので、相手の攻撃を棒を使って防ぎやすい さまざまな打ち方を試し、どのような攻めが有効か考えたい 仲間との練習時間を増やし、何度も打ち込む練習をしよう</p> <p>多様な攻めができる棒術だからこそ、自分にあった攻め方を工夫しなければならない</p> <p>有効打突を決めるための攻め方を考え、試合で試す 4時～10時</p>	<p>☆個の動きのよさに気づく力 ・仲間との練習をとおして、有効な打突の打ち方や構え方に気づく</p>
つなげる	<p>○照らし合わせる経験 有効打突を決めるための攻め方を見つけ出せるように、私の必殺技カードで気づいた有効な攻め方を記入し、チーム練習に活用する</p> <p>○照らし合わせる経験 ねらいとする攻防ができていないかを確認するために、試合の映像を利用しながら、動きを確認するよう促す</p>	<p>棒の両端を使って打つと攻撃の幅が広がる 隙を見つけたら、そこに正確に打てる打ち方を身につけたい 相手の隙を作るために、自分から仕掛けていくことが有効だ</p> <p>たくさん打つのではなく、狙った攻撃でポイントが取りたい 攻撃を避けたり、技を決めたりするための間合いを考えたい フェイントをかけて相手の構えを崩して一本を取りたい</p> <p>鏝迫り合いになった時からの攻撃の仕方を考えたい 適切な間合いをつかみ、一打で決められるようになりたい 多彩な攻めを考え、相手に応じた技をくり出したい</p> <p>自分から仕掛けたり、相手に応じた技を考えたりすることが大切だ。身につけた技を駆使して使い分けなければならない</p> <p>応じ技など相手との駆け引きを意識した攻撃方法を考え始める 11時～13時</p>	<p>☆人との関係を築く力 ・チームの仲間を勝利に導くために、相手の攻撃を分析したり、仲間とともに自分にあった攻撃パターンを考えたりする</p>
	<p>○振り返る経験 これまでの学習の成果が実感できるように、単元まとめを用意する</p>	<p>棒術をとおして、技だけでなく心も磨くことができた 一人一人が得意な攻撃技をもって戦うことが大切だ 対戦相手の動きを想定して出す技を考えよう</p> <p>一人一人の成長だけでなく、集団としての成長を感じた 練習をしてきた自分の得意技が決まっただけでうれしい 試合をとおして、対戦相手との攻防を楽しむことができた</p> <p>棒術は、技と心を互いに磨き合いながら、相手と攻防することを楽しみがあることがわかった</p> <p>ともに活動する仲間との関わりを大切にしながら、運動への関わり方を工夫していく</p> <p>攻防の楽しさは、他の運動にもあてはまる 運動をともにする仲間との関わりを大切にしていこう</p>	<p>☆人との関係を築く力 ・相手とのやりとりをとおして、自分自身を見つめるだけでなく、周りのことを目を向けながら、運動に親しむ</p>

4 本時の構想 (8/13)

実戦式棒術のルールを知り、試合をすることで身につけないといけない技能や簡単な攻め方、守り方に気づき練習を始めた。試合を繰り返したり、チーム内で攻防の仕方を考えたりする中で、相手の隙を突く大切さや、自分から仕掛けて相手を崩すことの重要性に気づき、狙ったところへ正確に打つことが課題となった。正確に打つためには、打ち方によって相手との間合いが違うことに気づき、自分の得意な打ち方とその間合いの関係を意識しながら練習をしている。そして、有効な攻防の仕方を私の必殺技カードに記入し、試合で試している。

本時では、近い間合い、遠い間合い、一足一刀の間合いなど、それぞれの間合いに応じた攻防の仕方について意見交流し、間合いに応じた攻め方の違いを確認する。間合いの変化に応じて、打ち方を変えようと考えている生徒を指名することで、自分の得意な間合いに持ち込み、攻撃するよさに気づかせたい。その後、試合やチームで練習の場を設定したりすることで、仲間と試行錯誤しながら間合いに応じた多彩な攻撃を考え、試合で試す姿につなげたい。

